



学校だより



8・9月号

令和4年8月29日
横浜市善部小学校
校長 福田 美穂

子どものちから

学校長 福田 美穂



今年の夏は今までにないほどの酷暑続きでした。立秋を過ぎた頃からは、毎日の気象予報の気温の変化に期待をしていましたが、なかなか思うように下がりません。あまりにも暑い夏休み、ご家庭では子どもたちのあふれるエネルギーをどのように発散させるかをいろいろ考え、ご苦労されていたのではないかと思います。9月の懇談会で、その工夫や苦労なども伝え合えると今後の参考になるのではないのでしょうか。

さて、夏休みの間も一人ひとりの学びは続いています。宿題のことだけでなく、子どもたちが日々していることがすべて学びに結びついています。いつも同じものを見聞きしていても、日々新しい発見をしているかもしれません。ほんの小さな気づきでも、今後の学習を自分の体験と結びつけて考えられると、主体的な学びにつながります。私は夏休み前に「たくさんチャレンジしよう！学校があるときはなかなかできないけれど、長い休みだからこそゆっくりじっくりしたいことをやってみよう。」と話しました。が、そんな話をせずとも、はっきりとした目的がなくても、何かをしながら理屈が分かったり、よりよい方法を考えたりするのが子どもなのだと思います。年長者の余計なおせっかい、という感じの話をしたなど反省しています。

先月の学校だよりでもお伝えしましたが、6月から始めた5年生の稲を育てる活動では、一時期枯れ始めたり分けつしていなかったりしていました。このままにはしておけない、米を収穫したいと再奮起した5年生。二宮さんに再度助言をいただき、「特に水が大切。生き物だから冷たすぎてもだめなんだよ。」というお話から、みんなで力を合わせて水の管理をしようと、当番を決めて世話をしていました。もちろん夏休みも続きます。決めたことをコツコツとやり続けた結果、みごとに稲が生長しました。私も担任をしていた子どもたちとバケツ稲にチャレンジしたことはありますが、ここまで大きく立派にできたことはありません。

この活動は、もちろんこれからも続くのですが、さて、子どもたちが（他の学年も）夏休み明け登校してきてバケツ稲を見たとき、どんな言葉が、表情が出るでしょう。それがとても楽しみです。うまくいかないことをそのままにせず、他の協力を得ながらも根気よく取り組むと、できることがある、分かることがある、自分の知らない自分に出会える。そんなすてきな瞬間を学校で、家庭で、地域などの多くの場面づくり、どの子にも「輝く目」「輝く表情」をたくさん引き出せるようにしていきたいです。（学校ホームページにてすべての学年の子どもたちの様子を掲載しています。学校での子どもたちの輝きができるだけ伝わるようにしておりますが、ぜひお子さんからもお聞きください。）

残暑が厳しく、またコロナ感染が収まらない中ではありますが、保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き学校へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

